



THE NEWSLETTER OF JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY

城西国際大学学内報

— 第77号 —

TOPICS

2019年度秋季卒業式

8月30日(金)、東金キャンパス水田記念ホールにおいて、2019年度秋季学位記授与式・卒業式を挙行了。交換留学生も含め、中国、台湾、韓国、アメリカ、インドネシア、カンボジア、シンガポール、スリランカ、スロバキア、チェコ、ハンガリー、フィンランド、フランス、ベトナム、ポーランド、リトアニアの16カ国・地域出身の留学生と日本人



告辞を述べる杉林堅次学長



祝辞を述べる上原明理事長

学生、保護者・ご来賓の方々など約500名が参列した。

杉林堅次学長は告辞で、今、世界は三つの大きな流れに直面しているとし、第4次産業



答辞を述べる環境社会学部のAria Wong Shi Huiさん(シンガポール出身)



博士の学位を授与された大学院修了生

革命の中核であるAI・IoT・そしてビッグデータなどの台頭、地球環境問題や人口増加対策などの持続可能な開発目標、そして寿命の長期化について触れた。その上で「これから社会に出る皆様には、このような社会の変化に対応していけるよう感度の良いアンテナを持つようにしてください。また、一人ひとりが私達の生きる地球を守るという意識を持って

ください。さらに、経験や勘に頼るのではなく、情報処理能力や想像する力を大事にし、周りとしっかりコミュニケーションを取るようにしてください」と述べた。また、生きる上で大切なこととして、学校法人城西大学創立者・水田三喜男先生の「学問による人間形成」という建学の精神や座右の銘「偽(いつわ)らず、欺(あざむ)かず、諂(へつら)わず」という精神を大切にするとともに、良い人間関係を築くことも仕事を進めるうえで非常に大切であると述べた。

学校法人城西大学上原明理事長は祝辞で「私の座右の銘は『着眼大局、着手小局』です。着眼大局とは時代の大きな流れを見て、それに逆らうことなくその時流をとらえ、社会のニーズに応えること。着手小局とはそれに向かって一步一步努力をすることです」と述べた。「今、大きく世の中が変わっており、社会的な問題解決や経済発展を促進するような創造性と技術開発が望まれています。その社会的ニーズに対して、どう対応していくかわかれています」と述べ、そのために必要なこととして「学問の基本を身につけること、問題意識を持つこと、情報を集めるために心のアンテナを張り巡らすこと、課題を解決するために考えること、自分の人生は自己責任であるということ」の五つを挙げた。さらに「明日の自分は、今日の自分が何を考え、どんな行動をしたかという結果である」ということを心がけ「積極的であること、前向き発想であること、そして中間目標を立ててそれに対する毎日の自分の努力を積み重ねていくことの三点が成功者の共通点である」と述べた。最後に水田三喜男先生の言葉「立派な社会は、立派な人間によって成し遂げられる」を挙げ「立派な人間というのは、成功するために悪戦苦闘する、その過程において人間性が磨かれ、社会に貢献できる人間になる、ということです。生涯学習、社会の発展のために大きな貢献をすることを願っています」と述べた。卒業生を代表して答辞を読んだ環境社会

学部のAria Wong Shi Huiさん(シンガポール出身)は「4年前に城西国際大学に入学し日本文化について学び、語学力を高めながら環境社会学を学びました。多くの国々、背景を持った学生たちと交流する機会も多く、大学周辺の小学校を訪問し母国のことについて話すという経験もしました。多くの活動に参加する中で、母国から遠く離れた私を暖かく迎えていただきました。先生方や地域の皆様に感謝します」と述べた。



セントラルスパインに掲げられたお祝いの横断幕

2019年度秋季入学式

9月18日(水)、東金キャンパスの水田記念ホールで2019年度秋季入学式を挙行了。日本人学生のほか、韓国、スペイン、スリランカ、スロバキア、タイ、台湾、チェコ、中国、ノルウェー、ハンガリー、フランス、ベトナム、ポーランド(五十音順)の世界13カ国・地域より外国人留学生が入学し、国際色豊か



会場内の外国人留学生

な式典となった。

杉林堅次学長は告辞で「創立者・水田三喜男先生は建学の精神として『学問による人間形成』を掲げました。学問を通して公明正大な人として成長していくことを教育の目標としています。新入生の皆さんは常にこの建学の精神や教育目標を胸に刻んで、学業に取り組んでください。また、学業だけでなく、本学の学生や地域・企業の方々と深い交流を重ねるよう努めてください。授業以外にも多くの学びが実践できます。このことこそが、水田三喜男先生の考えた教育の理念に応える方法になります。皆さんはIndustry 4.0やSociety 5.0というキーワードを聞いたことがあるでしょうか。人類は歴史上、最も激動の時期を経験することになります。皆さんはこのような時代に、いずれ実社会に出ていろいろな人達と競争することになります。競争は他人とだけではなく、実は自分自身との戦いであることを本学での日々で感じ取ってもらいたいと思います。そして、卒業の時は皆さんに『城西国際大学で学んで良かった』と思ってもらえるように頑張ってもらいたいと思います」と述べた。



告辞を述べる杉林堅次学長

学校法人城西大学上原明理事長は「本日までご列席いただきましたご来賓の皆様方、台風15号による被害の復興の最中にも関わらず、入学のお祝いにお越しいただき、心から御礼を申し上げます。大学といたしましても、地元

の皆様方にボランティアで積極的にお手伝いをさせていただきたいと思っております。さて、今、大きな時代の変化が起きています。あらゆる産業、あらゆる社会が、従来の延長上ではなくさらに進化、展開を図らないといけない時代となりつつあります。これからの皆さんの働き方に社会全体が大きく期待しています。城西国際大学でまず第一に、学ぶことの基本をしっかりと身につけていただきたいと思います。中国の思想家 荀子は『生涯学ぶことが必要である』と言いました。覚悟を持ち打ち込んだものに対してどのように勉強すれば身につくかということを学ぶことで、何にでも対応できます。今の時代人生100年と言われています。卒業してからあと80年残っています。その80年間、どのようにして勉強していくか、自分の人生から何を学ぶかということをも身につけてください。第二に、どうしてだ、なぜだ、という問題意識を絶えず持つてください。改善、改革は問題意識がないところには生じません。ひとつ改革してもさらにもっとできないかという問題意識が重要です。第三に、問題を解決するために情報の収集が必要です。先人から学び他人から学び、解決策を自分で考え仮説を立て実行して検証し、その結果から学ぶ。博学博識だけではなく疑問に対して考えて解決できる、このような人間が今の時代に求められています。最後に申し上げたいのは『自分の人生は自己責任である』ということです。自分で考えて行動して身につけていくこと。私自身は『明日の自分は、今日自分が何を考え、何を果たしたかの結果である』と思っています。積極的であること、前向きに発想し自分の経験で身につけること、目標を持ってコツコツやること、この三つが人生の成功者の共通点だと思います。入学された皆さんには自分の人生は自分で築く、毎日何を考えどのように行動するか、そういうことを積み重ねて成長していただきたいと思います」と祝辞を述べた。また、来賓のポーランド共和国大使館臨時代

理大使のRadoslaw Tyszkiewicz氏、台北駐日経済文化代表処教育部長の黄冠超氏が新入生に祝辞を述べた。



祝辞を述べる上原明理事長

新入生を代表してエトヴェシュ・ローランド大学(ハンガリー)からの交換留学生のNagy Eszterさんは「私は高校生の時から日本に留学するための準備をしてきました。日本語を勉強しながら文化にも興味を持ちました。ここで過ごす時間で貴重な経験と多くの新しい知識を得るつもりです。時には困難にぶつかる可能性もあるでしょう。ハンガリーの諺『勉強しないはずの人はいない、誰からでも学ぶことができる』に基づいて勉強して、私たち新入生一同は建学の精神を実現するために学則を守り勉学に専念することを誓います」と力強く宣誓した。



新入生代表 Nagy Eszter さん
(ハンガリーのエトヴェシュ・ローランド大学からの交換留学生)



駐日ポーランド共和国大使館臨時代理大使
Radoslaw Tyszkiewicz 参事官による祝辞



台北駐日経済文化代表処教育部長 黄冠超氏による祝辞



各国の旗がならぶ学内

FACULTY TOPICS

経営情報学部

海外ビジネス研修(アメリカ)

9月5日(木)から16日(祝)まで、姉妹校であるカリフォルニア大学リバーサイド校(UCR)を拠点とした海外ビジネス研修を実施した。到着したその日からホームステイが

始まり、翌日にはオリエンテーションとスポーツマネジメントの授業を受講した。翌日からはグループツアーが始まり、Dignity Health Sports Parkのスタジアムツアー、メジャーリーグ観戦を行い、スポーツマネジメントについて見聞を広めた。また、Japanese American National Museum(全米日系人博物館)やSanta Monica State Beach(サンタモニカビーチ)、Palm Springs Tramwayなどのグループツアーを通じて、日系アメリカ人やカリフォルニアの歴史や文化などを体験した。



スポーツマネジメントの授業の様子

Walmartではアメリカの小売業の実態にも触れ、日本の小売業の実態や接客、店舗オペレーションとの違いなどについて理解を深めた。Amazon Fulfillment Centerは現在、完全自動化を目指して大きな工事を行っており、日進月歩の物流現場に大きな刺激を受けた。プログラム最終日は、2人1組になって英語でのプレゼンテーションをおこなった。



全米日系人博物館でガイドの方々の説明に熱心に聞き入る学生達



プログラム最終日 英語でのプレゼンテーションの様子

人口減少セミナー 開催

10月18日(金)東金キャンパスにおいて、千葉県総合企画部政策企画課主催の「人口減少に関するセミナー」を開催した。本セミナーでは、千葉大学大学院社会科学研究院教授の関谷昇先生より、千葉県の人口動向、人口減少問題やその解決に向けた発想の転換、そして内向き・縦割り社会から脱却し有機的なつながりのある地域づくりが必要であるといった内容のお話を伺った。また、近隣自治体の事例紹介として東金市企画課副課長の増田剛一様より、東金市まち・ひと・しごと創生総合戦略についての説明を受けた。

今回のセミナーは、経営情報学部(東金キャンパス)、環境社会学部の学生が聴講した。千葉県東金市にある東金キャンパスには地方出身者も多く、卒業後、地方に戻って地



千葉大学大学院社会科学研究院教授の関谷昇先生による講義の様子

域活性化の担い手を目指す学生もいる。学生たちにとって、これから直面する人口減少の問題に対して理解を深めることができただけでなく、今こそ地方主導かつ異業種間交流により多様性や個性を生かした地域づくりがとても重要であることを知る貴重な機会となった。学生たちは、人口減少や少子高齢化といった社会の課題に対して、自分たちの知らなかった視点での解決方法を知ることができて良かったなどと感想を述べていた。

東金市学生意見交換会に参加

10月23日(水)、経営情報学部公共マネジメントコースの学生と看護学部の学生が、東金市次期総合計画策定に向けた東金市との意見交換会に参加した。本学が立地する東金市は千葉県のほぼ中央に位置し人口約6万人の市である。市の基本構想を示す第三次総合計画は令和2年に第四期基本計画を終え、次期総合計画に向けて、学生達から東金市の強み、弱みを検証してもらい、東金市の将来像について自由な意見交換を行った。

冒頭、東金市を取り巻く現状について解説いただき、次に学生達が自由に意見を出した。経営情報学部の学生は「継続的なスポーツイベントによる地域おこし」といったアイデアから「まずは防犯対策が重要」など生活上困っていることも含めて意見した。看護学部の学生からは「東金市を全世代が住みやす



意見交換会の様子

い持続可能な街にしたい」「いっそ市の中心を大学がある求名に！」など画期的な意見がでた。今後は、学生達自身が東金市に何ができるか、そういった目線でも学部内で議論し提案できたらと思う。

国際人文学部

スperlマン・カレッジ学生との合同授業

5月21日(火)から、本学の協定校であるアメリカ合衆国ジョージア州のスperlマン・カレッジの学生が短期日本語研修生として来日し、東金キャンパスで日本語を学んだ。6月3日に行われた「日本語教育実習」(林千賀先生担当)の授業では、国際文化学科で日本語教師を目指している学生も参加し、スperlマン大学の学生たちに日本語を教えたり、学ぶ側の異文化を理解するなど、互いに交流を深めた。



合同授業の様子

スリランカ訪問団と交流

7月25日(木)、国際交流学科の4年生が、スリランカから研修のために来日した訪問団と交流した。参加したのは4年の星榛菜さん(仙台高校出身)と清水優香さん(海星学院出身)で、二人は日本語教員養成課程(副

専攻)登録学生で、2月には独立行政法人国際交流基金の助成を受けて、台湾の姉妹大学での日本語教育実習に臨む予定である。

交流会当日、星さんと清水さんは「よさこい」と「太鼓」を披露したあと、スリランカの学生たちと一緒に振り付けをしてその踊りを一緒に踊り、日本文化を実際に体験することにより交流を深めた。日本語教育実習を行う台湾でも「よさこい」「太鼓」の文化紹介をする予定である。日本語教員になるためには、日本語そのものだけでなく、日本文化を紹介できる力も求められている。



全員でよさこいソーランを踊りました

全日本中国語スピーチコンテスト 千葉県大会で優勝

国際交流学科3年生の萩原悠斗さん(栃木県立宇都宮北高校出身)が、第36回全日本中国語スピーチコンテスト千葉県大会(千葉県日中友好協会・千葉県中国語学習連絡会共



優勝した国際交流学科3年の萩原悠斗さん

催)で優勝した。スピーチのテーマは「因为足球, 我们相遇相知(サッカーがもたらした出会い)」、作文の内容と質疑応答が高く評価され、千葉県知事賞を受賞した。萩原さんは交換留学生として北京外国語大学に留学した1年間で、HSK4級(日常中国語の応用能力を判定する中国語検定試験)に合格、中国語の勉強に励むだけでなくサークル活動にも参加し、日本語学科のサッカー部に所属し国籍や年齢の垣根を越えた友情を育んだ。大会エントリーに向けて設定したスピーチテーマは、JEAP留学の大きな成果の一つになった。2020年1月12日(日)に開催される第37回全日本中国語スピーチコンテスト(全国大会)に向けて、さらに勉強中である。

千葉県立農業大学校 社稷祭(しゃしよくさい)へ出店

11月10日(日)、国際交流学科の市山ゼミの学生たちが、本学の代表として千葉県立農業大学校社稷祭にブラジルブースを出店した。ゼミ生は、野菜販売が人気の学園祭でブラジルの商品をどのようにお客様にアピールするか、どうしたら手に取ってもらえるか、販売方法を考えた。その結果、ブラジルの炭酸飲料「ガラナ」は大好評で、学園祭終了時刻1時間前には完売することができた。また、農業大学校で飼育されているヤギ等の動物にも触れ、大学校の学生と交流をした。



ブラジルブースを出店

薬学部

チュラロンコン大学 来学

6月3日(月)、タイ王国チュラロンコン大学薬学部から、国際担当の副学部長 Waranyoo Phoolcharoen 博士と、講師 Tatta Sriboonruang 博士の二人の教員が来学した。本学との連携強化のための会議が行われ、2020年度よりチュラロンコン大学の薬学生が本学に6週間滞在し、薬局実習を経験することが合意された。さらに共同研究による教員交流や交換留学生の可能性についても話し合われた。今後、両大学間で様々な交流が広がっていくことが期待される。現在チュラロンコン大学へは5年生が8月より留学しており、2020年3月末に帰国する予定である。

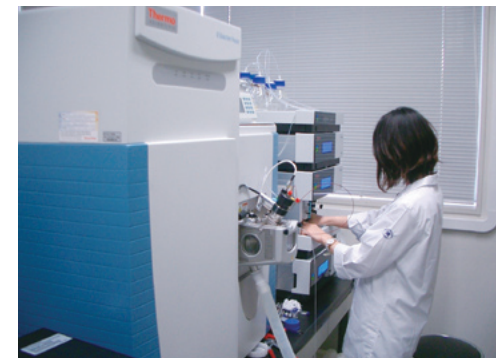


国際交流担当の先生方と光本篤史薬学部長

液体クロマトグラフ質量分析計 導入

本学に最新の液体クロマトグラフ質量分析計(Q Exactive FOCUS Standard MS System Thermo Fisher SCIENTIFIC社)が導入された。この装置は液体クロマトグラフィーによって試料を成分ごとに分離したのち、質量分析計によってそれぞれの成分の分子量を測定することで、成分の種類や量を解析することが可能となっている。この装置は教員の指導のもと、研究室に配属された学生も使用すること

ができる。卒業研究では学生一人ひとりが研究課題に対して、これら最新の研究機器を用いて取り組んでいる。



液体クロマトグラフ質量分析計

アルバータ大学 短期海外留学

9月5日(木)～19日(木)の15日間、異文化理解と語学トレーニングを目的とした海外研修が、国際人文学部生と薬学部生を対象として、多文化社会であるカナダのアルバータ大学で行われた。薬学部からは1年生2名が参加し、アルバータ大学語学教員による英語トレーニングや薬学部への訪問、アルバータ大学薬学生との交流会に参加した。また、薬学部独自のプログラムとしてアルバータ地区の薬局訪問と薬剤師へのインタビューなども経験し、最終日には研修の成果を英語で発表した。この研修は本学とアルバータ大学が包括提携した学術交流協定に基づくもので、今



アルバータ地区の薬局を訪問

回が第1回目となる。これからも薬学生の国際的な視野を広げる教育を実践していく。

地域ケア特論演習 地域包括ケアシステムを学ぶ

9月19日(木)、5・6年次に開講されている地域ケア特論演習の一環として、株式会社千葉薬品の協力を得て、ヤックスケアタウン千城台店で実習を行った。こちらには調剤薬局やドラッグストアだけでなく、訪問看護ステーションや栄養士による健康相談等がある。学生はそれぞれの施設をまわりながら多職種が連携して地域医療を担っている姿や、実際に高齢者の方々が生活する姿を目にすることで、大学内の実習では経験できない様々な活動を学ぶことができた。



ヤックスケアタウン千城台店にて

福祉総合学部

EPAベトナム人介護福祉士 候補者との交流会を開催

7月4日(木)に、毎年恒例となったEPAベトナム人介護福祉士・看護師候補者との交流会を幕張国際研修センターで開催した。EPA候補者は、母国ベトナムでの日本語研修後、日本で研修をしながら、介護福祉士・看護師の資格取得を目指している皆さんである。

今回の交流会の前に基礎ゼミの授業の中

で、本学のベトナム人留学生からベトナム文化をおしえてもらっていたので、学生たちも「シンチャオ！(こんにちは)」と気さくに挨拶を交わすこともでき、会話も盛り上がっていた。ベトナムのEPA介護福祉士・看護師候補生みなさんも「来日して半年たちますが、初めて日本の大学生と話しました！」と交流をととても楽しんでいた。介護福祉コースの学生たちは、ベトナムのEPA候補者の皆さんが熱心に日本の介護福祉士や看護師になるための勉強をしている姿に刺激を受けていた。



会話も盛り上がった会場の様子

福祉教育センターがD棟に移転

9月に福祉教育センターがリニューアルし、D棟に移転した。それにともないこれまで以上に学生が国家試験の勉強や模擬試験の振り返りをしたり、実習前の準備やゼミナール室として利用している。とくに国家試験自



新しくなった福祉教育センター

主勉強会である「スタディ 21」では、毎週4グループが学習スペースをフル活用し、2月に迫った社会福祉士・精神保健福祉士国家試験への準備をしている。



充実したゼミナール室

高齢者福祉施設を見学

介護福祉コースでは、高齢者の生活の場についての理解を深めるため「介護総合演習Ⅰ」という授業で施設見学を行っている。10月24日(木)、コースの1年生が大学キャンパスのある東金市の「社会福祉法人ゆりの木会、ゆりの木苑」を訪れた。ゆりの木苑は東金市で、特別養護老人ホームやグループホーム、デイサービス、認知症対応型デイサービス、ケアハウスなど複数のサービスを運営している。

入居者の部屋など施設を見学した後、スタッフの方々から話を聞いた。介護職のやりがいについて学生が質問したところ「毎日『ありがとう!』の声をかけて頂くことも理由のひとつです」との答えをいただいた。今回の



ゆりの木苑の前で記念撮影

見学では、高齢者が生活している場の雰囲気を感じながら、福祉専門職として仕事をされているスタッフから直接話をうかがい、働く姿を間近に見ることができた。参加した介護福祉コースの1年生にとっては、介護福祉士になる夢を新たにすることができた良い機会となった。



入居者生活の説明を受ける学生

ソーシャルワーク実習 事前学習会を開催

社会福祉士資格取得のための実習は、10月から2月の間で約1ヶ月間行う。実習生は現在、事前準備に忙しい毎日である。そのような中、7月12日(金)に福祉施設の実習指導者に来ていただき、施設利用者の状況や実習前に取り組んでおくべきことについて話を聞いた。事前学習会は毎年実施していて、例年本学福祉の卒業生に来てもらっている。

今回は庄司俊介さん(社会福祉法人ロザリオの聖母会 香取障害者支援センター主任支



社会福祉法人ロザリオの聖母会香取障害者支援センター主任支援員 庄司俊介さん(2002年3月卒業)

援員、2002年3月卒業)、古井寛則さん(社会福祉法人八千代美香会船橋市特別養護老人ホーム朋松苑 主任生活相談員、2005年3月卒業)が、施設での具体的なエピソードやたくさんの写真を通じて、ソーシャルワーカーが大切にすべき利用者や家族との信頼関係の作り方やコミュニケーションのコツなど、実習のポイントをわかりやすく教えてくれた。実習生から「具体的なお話で実習前の不安が和らいだ」「卒業生から直接話を伺い、刺激になった」との感想があり、実りある事前学習会となった。



社会福祉法人八千代美香会船橋市特別養護老人ホーム朋松苑
主任生活相談員 古井寛則さん(2005年3月卒業)

メディア学部

シド・ミード フューチャー・デザイン・コンテストにて 大野耕志郎君が審査員賞を受賞

メディア学部1年大野耕志郎さん(埼玉県立松山高校出身)が、映画『ブレードランナー』や『TRON』『∀ガンダム』などのデザイ



ウミガメをモチーフとした自動運転式の潜水艦をデザイン

ンで知られるシド・ミード氏を審査委員長にむかえて『未来の乗り物』をテーマにしたコンテストにて見事「審査員賞」を受賞した。大野君はウミガメをモチーフにし、AIによる自動運転を行う潜水艦をデザインした。川田十夢氏、福澤知浩氏の二人の審査員より推挙され受賞に至った。授賞式は7月20日(土)に六本木AXISギャラリーにて行われた。

ちばアート祭2019に出展

8月14日(水)～25日(日)に千葉県立美術館、千葉ポートパークにて開催された千葉県主催の「ちばアート祭2019」にメディア学部クロスメディアコース(2020年よりニューメディアコース)の学生作品を展示した。ちばアート祭は、絵画・写真公募展、デジタルアート展、デジタルナイトサファリ(イルミネーション)、アートワークショップなど「ちば文化資産」の魅力を発信するアート祭である。

今回は「色の光で遊ぶ」をテーマにした「pixcol(ピコル)」と「未来をプログラムする」をテーマにした「Broad(ブロード)」の二作品を本学から展示した。pixcol(ピコル)は、ISCA (INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD) 2017にてナレッジキャピタル賞を受賞した作品で、子どもから大人まで楽しめる音と光の色を楽しむデジタルメディアアート作品である。Broad(ブロード)は新作で、光るブロックを配置して色や音の



人気の「pixcol(ピコル)」体験風景

変化を楽しむ知育玩具としての側面もあわせてデジタルアート作品である。

クロスメディアコースは2020年4月より「ニューメディアコース」に名称変更し、学びを充実させ、就職の幅を広げる。メディアエンターテインメントとしてのメディアアート、デジタルアートの分野での作品制作をこれまでも行ってきたが、ニューメディアコースでも引き続き人々を楽しませる、世の中を楽しくする作品を作り続けていく。



メディアデザインラボの学生たち

アニメ・CGラボに 最高スペック 液晶ペンタブレットを導入

メディア学部映像芸術コースでは液晶ペンタブレットの最上位モデル「Wacom® Cintiq® Pro 32」を紀尾井町キャンパスのアニメーション・CGラボに導入した。このモデルの実習室への一斉導入は国内の教育機関で初めてとなる。また同ラボでは2013年に当時



ペンタブレットを使った授業風景

の液晶ペンタブレットの最上位モデルである「Cintiq® 24HD touch」を導入していた。そのため最高スペックモデルの導入は今回で二度目となる。また、大型液晶ペンタブレットを使用したデジタル彫刻が快適にできる環境は当初ではまだ新しく、当時の次世代型CGラボのコンセプトを打ち出した。

メディア学部ではCG教育としてさまざまなソフトウェアを使用しているが、同タブレットは「描き味が良く、ストレスなく制作に打ち込める」と学生に評判である。生物の形態や解剖学を理解すると共に、造形力を養うデッサンの授業を展開、クリーチャー制作などデジタル彫刻を行う授業において、学生の創造性を引き出すツールとして活用していく。

スマートイルミネーション横浜 2019に出展

11月1日(金)～4日(祝)に横浜・象の鼻パークにて開催されたスマートイルミネーション横浜2019にて、クロスメディアコース(2020年度よりニューメディアコース)2年生の作品を展示した。今回展示した作品は自然を表現し、光っている花を触ると色が変わる「縁 YUKARI」、舵輪を回すことで横浜の街に光が灯っていく様子を再現した「横浜にヒカリを」、スポーツピクトグラムに注目し走る様子を楽しむ「オリムピクト」の三点である。三作品とも体験型で、子どもから大人まで楽しんでいただいた。



縁 YUKARI

2011年より開催されているスマートイルミネーション横浜は、アーティストの創造性を活用しながら環境にやさしい、未来の夜景のあり方を考えるをコンセプトに「夜の豊かな暗さ」を体験する国際アートフェスである。今年のテーマは「スポーツ・からだ・エモーション」で国内外のアーティスト、大学、企業がそれぞれ最新技術を活用したアート作品を展示した。

2015年は「buoy」で学校部門最優秀賞、2016年は「umi no mori」で一般部門優秀賞、「furegrua」で学校部門入選、2017年は「kisoku」で学校部門優秀賞、2018年は「生穂 kiho」で審査員特別賞と毎年受賞を重ねてきた。今年は招待作家として三作品を展示、いずれも2年生全員が履修する「メディアデザイン」の授業にて制作した作品である。

引き続きアート、デザイン、テクノロジーを活用した作品作りに挑戦していくのでぜひご期待ください。



横浜にヒカリを



オリンピックト

観光学部

観光ゼミナール 地域の活性化を实践する vol.2

9月29日(日)、鴨川市四方木地区にて、地域活性化を目的として地区住民の方々と協働で準備してきたイベント「里山のひかり」を開催した。9月8日に発生した台風15号の影響で同地区も停電とそれに伴う断水などが長引き、日常の生活に戻るまでに10日間前後の時間を要した。そこで、地区の方々と実施の可能性について協議し、「ぜひ開催を」という声も受けて同地区の癒しのイベントとして実施することとした。地区内のアクセスなどを考え、サービス付き高齢者住宅「よもぎの杜」の駐車場を会場とした。

当日は少しでも地域に貢献できればと考え、四方木不動滝へ通じる道の清掃・整備を行った。そして地区の方々と一緒に昼食を楽しみ、竹ランタン鑑賞会に向けて準備をした。竹ランタン鑑賞会には四方木地区の方々だけではなく、同じく地域活性化に取り組む清澄地区の方々も参加され、賑やかな鑑賞会となった。竹ランタンの灯りを囲み、そこかしこで会話が弾む様子を見ることができたことは、何よりも嬉しいひと時となった。



辺りが暗くなると次第に竹ランタンの光が浮かび上がる

マレーシア研修

10月9日(水)より9日間、観光学部新入生のための導入教育プログラムである「世界遺

産マレーシア研修」を実施した。入学後早い時期に海外での経験を積むことにより視野を広げることや、今後の海外留学や語学学習へとつなげることを目的としている。協定校であるトゥンク・アブドゥル・ラーマン大学(UTAR)で現地学生と交流しながら、マレーシアの歴史、文化を学び、マラッカ世界遺産の視察などを行った。



UTARの学生と記念写真

嶺岡牧祭り2019 開催

観光学部の安房キャンパスから遠望できる嶺岡地域には、類を見ない規模を誇る<嶺岡牧>が広がっている。この<嶺岡牧>は、徳川幕府八代将軍吉宗に由来する「日本酪農発祥地」であり、わが国の近代酪農産業の発展に大きく寄与したことが知られている。これ



研究発表会

まで多角的な活動に取り組んできた<嶺岡牧>を知って活用を考える会>が中心となって、11月9日(土)から24日(日)まで、複数会場にて様々なイベントを開催した。11月16日(土)には同会と観光学部が「嶺岡牧研究発表会」と、シンポジウム「安房に残された至宝「嶺岡牧文化」」を共催し、また本学部が後援する食フェスタではこの地域に根つき大切にされてきた乳製品「チッコカタメターノ」を持ち寄って試食した。

地域の資源に光を当てる、新たな情報を掘り起こす、情報を共有し広める、体験の機会を作る、将来に向けて活用方法を考える、そして連携し行動する。このような一連の取り組みは、本学部が目指す学びでもある。



郷土食チッコカタメターノ試食会

安房フェス2019 開催



心に残るメロディを奏でた長狭高校吹奏楽部の皆さん

11月23日(土)、安房フェス2019 世界にとどけ 地讃地笑を開催した。あいにくの雨となったが、模擬店もステージ・イベントも大盛況となった。



ヨーグルトを販売した安房拓心高校の皆さん



優勝を報告した軟式野球部一同も参加

環境社会学部

災害ボランティアへの参加

9月8日(日)に台風15号が関東を直撃し、千葉を縦断するかたちでその爪跡を残した。東金キャンパスのある東金市を含む山武郡地域、観光学部のある鴨川市を含む安房地域がともに甚大な被害を被り、学生たちの中には不安な日々を送った者もいた。そんな状況に際し本学としても日頃から地域連携でお世話になっている方々に恩返しをしたいということで、山武市社会福祉協議会が募集する、被災した住宅の一部を解体するボランティア活

動に、学生9名と教員2名が参加した。また、山武杉の倒木を搬送するボランティアにも、学生6名と教員1名が参加した。活動ではボランティアの一員として恩返しをするだけでなく、被災した住宅や倒木をどのように解体し廃材として分解し処理をするのか、その廃棄プロセスと復興に至る支援対応を学ぶ良い機会となった。また、山武市社会福祉協議会の活動を通して、平常時には接することのできない、実践の中での支援のかたちを学ぶことができたことは、環境社会学部の学生にとって良い経験となった。日頃教室の中で学んでいる「環境の学び」が、実践の中でどのように活かされているのかを知ることができた。

甚大な被害故に完全な復興には時間がかかると思うが、これからも地域連携の一つとして復興支援に関わっていきたい。そして、環境社会学部一同、一日も早い復興を願っている。

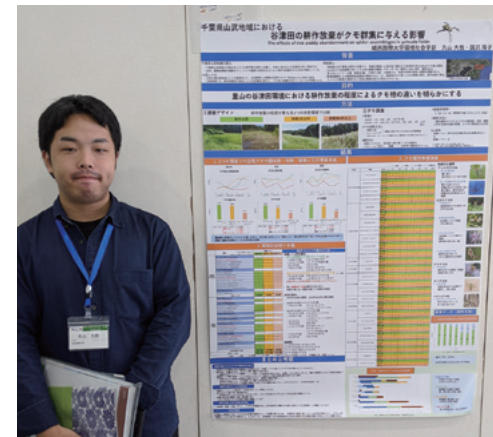


ボランティア活動の様子

「野生生物と社会学会」にて卒業研究を発表

11月22日(金)から24日(日)に開催された第25回「野生生物と社会学会」金沢大会において、環境社会学部4年の丸山大我さん(薬園台高校出身)が卒業研究の内容を発表した。「千葉県山武地域における谷津田の耕作放棄がクモ群集に与える影響」というタイトルで、

5年間ゼミで調査活動を行っている大学近隣の早船里山において、2年間野外調査を行った結果を発表した。初めての学会発表で緊張していたが、自身が行ってきた研究を学外の研究者に説明することは貴重な経験となった。他のゼミ生も2名学会に参加し、野生生物と人間社会に関する様々な課題に取り組んでいる研究発表を聞き知識を深めた。



発表ポスターと丸山大我さん

看護学部

ケア機能をもつ地域づくり 多世代交流プロジェクト

このプロジェクトは、地域に沈潜しているさまざまな価値を地域の方々と共有し、地域の課題解決に協働して取り組む『JIU域学共創プロジェクト』の一つである。地域連携推進センターの支援を受け、看護学部がコーディネートしている。今年度は、東金市大和田地区田中長寿会の「名なし会サロン活動」(下田中公民館)に参加して多世代交流を図り、ソーシャルキャピタルの向上(地域のつながりの強化)による健康寿命の延伸、およびケア機能をもつ地域づくりに関心をもつ人材の育成を目指した。

第1回は4月16日(火)、第2回は5月21日(火)に開催し、長寿会メンバー19名、学生7

名、シニアボランティア(JIUくじらクラブ)2名、教員、地域センター事務職員が参加した。「名なし会サロン」が企画しているプログラム(ロコモ体操、ちば★はっきりことばエクササイズ、折り紙、カラオケ、お茶会)に参加し、笑いの絶えない楽しい時間を過ごした。みんなで折り紙作品を作って、秋の地区の展覧会に出展することが決まった。第3回からは、学生企画のイベントもプログラムに入れてもらう予定である。



東金市大和田地区田中長寿会の皆さん



楽しみながらの機能改善

夏の海外研修

看護学部は8月から9月にかけてインド(8月7日～20日)、中国(8月28日～9月4日)、韓国(8月30日～9月6日)、ハンガリー(8月16日～9月12日)、オーストラリア(8月31日～9月15日)の研修を実施した。派遣先によりホームステイや大学寮での滞在となっ

たが、異文化に触れその地域での医療について日本と比較しながら看護についての学びを深めることができた。



韓国研修の様子

2019年度 Threshold Ceremony

看護学部1年生による第8回 Threshold Ceremony(宣誓式)が、11月8日(金)に東金市長、石橋県議会議員、本学生を輩出された高等学校の先生方、本学部関連病院施設の来賓の方々に見守られるなか執り行われた。108名の学生が自分たちの思いや決意をつむぎ、誓いのことばとした。学生が今日、自分たちで誓いを立てたその気持ちを忘れずに、全ての方々に感謝し仲間と共に学び続け、誇りをもって看護の道を歩み続けることを願っている。



Threshold Ceremony(宣誓式)

国際教育センター

竹灯籠まつりに参加

東金市内に鎮座する八坂神社(松之郷地区)の地域活性化事業として7月6日(土)、7日(日)の両日にわたり、竹灯籠まつりが実施された。事前に本学の留学生を含むボランティアが市内の竹林から竹を切り出して竹灯籠を作り、イベント当日は境内でライトアップした。参加した留学生たちは神楽舞を見学したり、屋台で買い物をしたりして日本の伝統的な文化を楽しんでいた。



神楽舞を見学

プレイヤールーム(礼拝室) 設置

本学では今後イスラム圏からの留学生が増えることが見込まれるため、東金キャンパス内にプレイヤールーム(礼拝室)を新たに



プレイヤールーム(礼拝室)

設置した。プレイヤールームの広さは約99㎡で、複数の学生が同時に利用することが可能である。このプレイヤールーム(礼拝室)はイスラム圏からの学生に留まらず、本学で学ぶ約1,200名(30カ国)の外国人留学生をはじめ、すべての学生、教職員の祈り、瞑想の場として活用されることが期待される。

サンブ杉で My 箸作り

6カ国(中国、韓国、台湾、ノルウェー、ベトナム、マレーシア)からの留学生18名が10月5日(土)に山武市多文化交流事業の一環として実施された「サンブ杉でMy箸作り」に参加した。地元の方々と交流し箸づくりを教えてもらいながら、山武市の名産サンブ杉を使用した世界に一つのオリジナル箸を制作した。学生は「留学生活の記念になる」と、とても喜んでいる様子であった。



箸作り作業の様子

ハラールメニューの提供開始

本学ではムスリムの学生に安心・安全な食事を提供するために「ムスリムフレンドリー認証」を取得し、11月11日(月)より東金キャンパス第一学生食堂(とちテラス)「ハラール・ブース」において、全ての学生、教職員にハラールメニューを提供することにした。同時にヴィーガン(菜食主義)メニューなども取

り入れ、様々な「食の戒律」に対応することを目指している。



イエローカレー

TOPICS

合同業界研究・企業説明会 開催

4月から11月まで、毎月定期的に就職活動中の4年生や早期の就職活動を準備している3年生を対象に「合同業界研究・企業説明会」を開催した。

卒業生の就職でお世話になっている企業や成長を続けている企業などから、業種が偏らないように毎回5社前後に参加いただいている。

説明会では人事採用担当者と面談することで、参加企業を知るだけでなく、業種や業務への理解も深めることができる。また、一方的に聞くだけでなく、積極的にコミュニケーションを取るよう指導して参加を勧め



11月27日学内合同業界研究・企業説明会の様子

ている。

この他、4月に福祉総合学科、8月に理学療法学科、11月に医療薬学科で、学科別に医療や福祉関連の事業所に来学いただき「業界研究会」を開催した。

高大連携 成東高校来学

千葉県立成東高等学校が単位制高校となったのを機に、キャリア教育推進の一環として学校設定教科「つくもタイム」を開講した。それに伴い、医療分野に関心のある生徒を対象とした「ヘルスケア基礎」と、国際分野に関心のある生徒を対象とした「多文化共生」の2講座を、本学が高大連携の科目として担当している。留学生との交流や医療現場の見学などもあり、受講者の評価も高い。受講者の中から数名が本学に入学している。3限目(13:30～15:00)に実施し、今年度の学習内容は以下の通り(別途、高校での事前事後の学習有)。

○ヘルスケア基礎

月日	
5/10	イントロダクション 光本先生(薬)
5/17	世界三大感染症マラリア特效薬キニーネ…熱帯雨林に未知の特效薬を求めて 関根先生(薬)
5/31	理学療法士の仕事って？ 窓場先生(理学療法)
6/7	理学療法士がみるヒトの身体と動きって？ 横井先生(理学療法)
6/14	スポーツ理学療法って？ 栗原先生(理学療法)
6/28	「看護」って何だろう？Ⅰ 齋藤先生(看護)
7/12	「看護」って何だろう？Ⅱ 齋藤先生(看護)
9/13	あなたの知らない薬剤師の世界 三浦先生(薬)
10/25	薬の効き方、不思議発見 堀江先生(薬) ＊3・4限

11/8	病院見学「さんむ医療センター」 井上先生(看護) ＊3・4限
11/22	『ソーシャルワーク』って何だろう？ 森山先生(福祉総合)
11/29	事後学習「ヘルスケア基礎を学んで」 岩田先生(看護)

○多文化共生

月日	
5/10	グローバル化の光と影 三島先生(国際交流)
5/17	グローバル市民と国際教育 大森先生(国際文化)
5/31	国際コミュニケーション入門 市山先生(国際交流)
6/7	異文化間コミュニケーション 林先生(国際交流)
6/14	多文化共生と日本語教育 野々口先生(国際文化)
6/28	韓国語教育におけるインクルージョン－ハングルという文字から考える－ 中川先生(国際文化)
7/12	近代日本の留学生群像と文化交流 長尾先生(国際文化)
9/13	アメリカの多文化社会 Smith先生(国際文化)
10/25	日本とハンガリー Kiraly先生(国際交流)
11/8	アジアの多文化社会 川野先生(国際交流)
11/22	グローバル時代の現代日本文学 芳賀先生(国際文化)
11/29	美術史の中の日本 古城寺先生(国際交流)
12/13	欧米の日本・日本人ステレオタイプ 飯倉先生(国際交流)

スリランカ日本教育文化センター 奨学生と交流

7月25日(木)、スリランカ日本教育文化センター(SNECC)奨学生5名が来学し、本学の学生たちとの交流会を開催した。本交流会は山武市が東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会でのスリランカ国のホスト

タウンとして登録されていることから実現したもので、本学を訪問するのは今回が初めてとなった。

午前中は学内のキャンパスツアーを行った。留学生センター林千賀所長の挨拶の後、当日の案内役を務める国際交流学科の学生たちとお互いに自己紹介をし、アイスブレイクの後、いよいよキャンパスツアーがスタートした。創立者ギャラリーをはじめ、高円宮殿下記念ギャラリー、図書館、美術館などを見学した。美術館では「水田コレクション 浮世絵版画の技巧」の展示期間中であり、作品の前で学芸員の説明に熱心に耳を傾けている姿が印象的であった。

キャンパスツアー終了後は、とちテラスにて本学学生との交流を兼ねた昼食会を行った。昼食会には日本人学生だけでなく、学部や留学生別科に在学しているスリランカからの留学生も合流し賑やかな雰囲気の中、みんなで楽しく食事をする事ができた。

午後からは互いの国の文化を体験してもらうため「習字体験」「よさこいソーラン」「スリランカ民族ダンスの披露」を行った。語学教育センター羽鳥美有紀先生による「習字体験」では筆ペンを使って自由に文字を書いてもらった。慣れない毛筆に苦戦しながらもそれぞれ好きな漢字を書きあげると、皆満足そうな表情を浮かべていた。「よさこいソーラン」「スリランカ民族ダンスの披露」は体育館に移動して行った。それぞれ衣装に着替え本格的な踊りを披露すると会場は熱気に包まれ、見学していた学生たちからも大きな拍手が起こった。最後には会場にいた全員で「よ



習字体験で日本の文字を書きました

さこいソーラン」を一緒に踊り、大いに盛り上がった。

今回の交流会では短い時間ではあったが、SNECC奨学生と有意義な交流ができた。

求名駅前地区の清掃活動に参加

10月6日(日)、課外活動団体と教職員を中心に約20名が東金キャンパス周辺の「クリーンキャンパスプロジェクト」を実施した。この取り組みは毎年6月と10月の年2回実施しており、清掃活動を中心にキャンパス周辺の美化を推進している。2009年より継続的に参加、今年で11年目を迎え、延べ1,600名以上が参加している。今後も地域と大学の顔の見える活動を実施する予定である。



集合写真

第3回 3J FESTIVAL 開催

10月14日(月)、紀尾井町キャンパスにおいて、城西国際大学・城西大学・城西短期大学合同の大学祭「第3回 3J FESTIVAL」が開催された。日頃同じ紀尾井町キャンパスで学ぶ3つの大学の学生が一つになって立案・運営のすべてを学生主体で実現している催しである。ステージプログラムでは、お笑いライブやバンド演奏、ダンスやトークショーなどが行われ盛りだくさんであった。学生がモデルとなったファッションショーでは、特設のランウェイで本物のファッションモデル顔負けのウォーキングが披露され、大歓声が飛び交っ

た。イベント・展示では、傷メイク体験や番組制作体験など、紀尾井町キャンパスにある学部ならではの内容の出店が数多くみられた。



ファッションショーの様子



傷メイク体験

第28回 JIUフェスティバル開催

11月3日(日)、4日(月)に東金キャンパスにて「第28回 JIU FESTIVAL」を開催した。今年のテーマは「和」で新元号の令和、人と人との和(輪)という繋がり、新たなスタートの「0」という想いを込めた。在学生は各ゼミで研究分野に関する教室展示や外国人留学



開祭式で挨拶する大学祭実行委員長の石橋岳久さん
(経営情報学部3年)

生が出身国に関連する模擬店を出店した。全国父母後援会支部による物産展も開かれ、長蛇の列が出来た。4日にはバザーを開催し、バザーの収益金については災害復旧活動への寄付を予定している。最終日には大学祭で優れたイベントや展示を行った団体を表彰した。表彰団体は以下の通り。

- ・学長賞：学友委員会吹奏楽団／中欧文化ワークグループ
- ・父母後援会長賞：子ども福祉コース基礎
- ・同窓会長賞：市山ゼミ
- ・学生部長賞：産学連携イベントプロジェクト
- ・地域貢献賞：JIU SID Society 国際開発研究会
- ・特別賞：千葉県立農業大学校



多くのゼミ等で発表や展示を実施



台風被害への義援金募集

東金市より学生が表彰を受けました

東金キャンパスがある東金市が、市の発展に功績を残した人を表彰する「市政功労者表彰式」で、今年度より新たに創設された東金

市市政功労者「学生の一部」において学生サーフィン大会で優勝した古田龍之介さん(国際人文学部3年)、課外活動団体が中心となって編成されている防犯パトロール隊が表彰を受けた。

古田龍之介さんの功績

- ・2018年度秋季第47回全日本学生サーフィン選手権メンクラス第3位入賞
- ・2018年度日本サーフィン連盟強化指定選手に選考される
- ・2019年度全日本サーフィン選手権学生支部予選メンクラス優勝

防犯パトロール隊

地域貢献活動の一環として、東金市および東金警察署の協力を得て、2007年度より活動。4月～7月、9月～1月の期間に課外活動2団体が防犯パトロール隊を編成し、各団体が月に1回、大学・求名駅前団地を巡回しながら、地域の防犯活動をおこなっている。



防犯パトロール隊と古田龍之介さん(右)

日本薬学図書館協議会 関東地区協議会に参加

11月20日(水)、令和元年度第2回日本薬学図書館協議会関東地区協議会(於：日本薬科大学さいたまキャンパス)に参加した。同協議会は、薬学系の大学・製薬企業・研究所・試験所の図書館(室)が加盟し、薬学教育・

研究の支援等、図書館事業の振興を図る目的で、薬学の情報や知識等を得る活動を行っている。関東地区協議会には現在67館が加盟、専属の組織や施設はなく、任期2年の協力館(運営役員)による輪番制で、協力館より当番館(議長、任期1年)、会計館、監査館(前年度会計館)、記録館を選出、当館は今年度監査館を務めている。

当日は当番館による議事進行及び、日本薬学図書館協議会の理事会報告、その後、当番館である日本薬科大学講師による基調講演「日本の医療における漢方の価値」「廃棄された明治期『薬学雑誌』や戦前『科学』を拾い読み」が行われ、引き続き、学芸員による漢方資料館の解説および、図書館員による図書館見学会が行われた。

当番館である日本薬科大学は、国際電信電話(現・KDDI)の研修センターを取得・改修し、2004年に開学。日本で初めて漢方医学に特化した「漢方薬学科」を設置、西洋医学と東洋医学を融合した“統合医療の実現”を教育理念に掲げている。キャンパス各所で、これらの歴史や特徴を感じることもでき、大変有意義な機会となった。



日本薬科大学漢方資料館の館内

千葉(全国)地区父母懇談会

12月7日(土)、東金キャンパスに於いて千葉(全国)地区父母懇談会が開催された。水田記念ホールにて全体会が行われ、その後会場を移して各学部別に分科会と個別面談が行われた。



杉林堅次学長による挨拶

SPORTS

明治神宮野球大会 ベスト4

城西国際大学硬式野球部は、千葉県大学野球リーグ戦で初の春秋連覇（リーグ優勝は通算6度目）を達成し、明治神宮大会出場をかけた「横浜市長杯争奪第15回関東地区大学野球選手権大会」（横浜スタジアム）に出場、11月1日（金）に行われた決勝戦で東海大学（首都大学野球連盟代表1位）に勝利し、見事初優勝を飾った。

その後「第50回記念明治神宮野球大会」に関東五連盟第一代表として初出場し、11月17日（日）に行われた2回戦広島経済大学（中国・四国三連盟代表）戦では、中島隼也投手（経営情報学部3年、仙台育英）が力投し勝利することができたが、11月19日（火）に行われた準決勝の慶應義塾大学（東京六大学野球連盟代表）戦では力及ばず敗退した。

皆様からの応援を励みにしてベスト4進出という結果を残すことができた。今後もご声援をお願いしたい。

横浜市長杯争奪第15回関東地区大学野球選手権大会初優勝 戦績

- ・準々決勝 対 武蔵大学
（首都大学野球連盟代表2位）2－1（勝）
- ・準決勝 対 白鷗大学
（関甲新学生野球連盟代表1位）3－0（勝）

- ・決勝 対 東海大学
（首都大学野球連盟代表1位）5－3（勝）
- ・最優秀選手賞 館 和弥
（経営情報学部3年 平塚学園）
- ・最優秀投手賞 中島 隼也
（経営情報学部3年 仙台育英）

第50回記念明治神宮野球大会 戦績

- ・第2回戦 対 広島経済大学 5－3（勝）
- ・準決勝 対 慶應義塾大学 1－6（負）

第15回関東地区大学野球選手権大会初優勝
関東五連盟第一代表を決める最優秀選手賞の館和弥選手
（経営情報学部3年 平塚学園高等学校出身）最優秀投手賞の中島隼也投手
（経営情報学部3年 仙台育英高校出身）明治神宮野球大会準決勝慶應義塾大学戦
得点時盛り上がるベンチ観光学部軟式野球部
東日本大会で見事初優勝

城西国際大学観光学部軟式野球部が「第40回東日本大学軟式野球選手権大会」に出場し、決勝戦で白鷗大学（北関東大学軟式野球連盟第二代表）に延長11回の末、6－5でサヨナラ勝ちし、見事、初優勝を飾った。最優秀選手賞を重松諭選手（観光学部3年、愛媛



最優秀選手賞の重松諭主将（愛媛県立今治北高校出身）

最優秀投手賞の久保田虎汰投手
（愛媛県立松山商業高校出身）

県立今治北高等学校出身）が受賞、最優秀投手賞を久保田虎汰投手（観光学部3年、愛媛県立松山商業高等学校出身）が受賞した。皆様からご声援をいただき、感謝したい。



全員野球で優勝

BOOK REVIEW

『Perinatal Bonding Disorders : Causes and Consequences.』
看護学部 看護学科
教授 大橋優紀子 共著



わが子に対する親の情緒的な絆「ボンディング」は、近年、世界的に注目されている。例えば児童虐待に関して、産後うつよりもむしろボンディング感情の影響が大きいことが、複数の研究により示唆されている。本書では、ボンディングの概念、成因、帰結、問題

への介入に関する著者らの実証研究を、先行研究のレビューとともに多角的に紹介した。本テーマの成書は、まだ非常に少ない。ボンディングの最新知見を多くの専門家に知っていただき、支援に役立てていただきたい。

(Cambridge Scholars Publishing, 2019)

美術館だより

浮世絵でよむ 南総里見八犬伝

会 期：9月17日(火)～10月12日(土)



曲亭馬琴の『南総里見八犬伝』は、安房国里見家に材をとった長編伝奇小説。里見家の姫・伏姫の持つ数珠から八つの玉が飛び散り、後年、玉と牡丹形の痣を持つ八人の若者、すなわち八犬士が現れ、不思議な霊力に導かれて互いに出会い、里見家のために活躍する。本展では、浮世絵で物語の展開をたどり、人々を夢中にさせた八犬伝の魅力に迫った。会期中の9月21日(土)にギャラリートークを行い、10月12日(土)に予定していた宮坂新氏(館山市立博物館主任学芸員)による講演会「南総里見八犬伝と房総里見氏」は、台

風のため10月19日(土)に延期して開催した。



会場風景



館山市立博物館主任学芸員 宮坂新氏による講演会の様子

東金アーカイブスプロジェクト 携帯カメラで記録された東金の街並、自然、文化

会 期：10月29日(火)～11月9日(土)



環境社会学部助教・金子祐介による東金アーカイブスプロジェクトは「域学共創プロジェクト」の一環であり、東金の記憶に残したい街並、自然、文化について、記録しアーカイブ化することを目指している。その第一弾として、6月に国際人文学部、環境社会学部、観光学部の学生を中心に約100名が、地図とスマートフォンを片手に東金市内を散策し、思い思いに撮影した。本展ではプロジェクトの中間報告として、撮影された写真を展示した。



会場風景

九十九里浜の網主画家 斎藤巻石

会 期：11月19日(火)～12月14日(土)



斎藤巻石(1798～1874)は、九十九里浜を代表する網主で、別邸「大洋庵」に梁川星巖ら来遊した文人を迎えて交流し、また書画を収集して一大コレクションを築き、自らも南画山水をてがけた。本展では、文化拠点として地域の発展に寄与した巻石の初期から最晩年までの作品を年代順に展示し、巻石の画業を紹介する。会期中の11月30日(土)に、古山豊氏(大網白里市文化財審議会会長)を講師として講演会「九十九里浜の大網主と網主画家・巻石」を開催し、11月21日(木)、12月5日(木)にギャラリートークを行った。



会場風景



大網白里市文化財審議会会長 古山豊氏による講演会の様子

発行：城西国際大学 総務課
電話 0475-55-8800